令和8年度第2回消費生活意識調査

（調査結果）

調査概要

1. 調査方法

インターネットを利用したアンケート調査

2. サンプル数

5,000 サンプル（人口構成比に応じた割り付け）

性年代

7段階の男女（15～19 歳、20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、
50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上）

地域 地域区分は、次の単位とする。

北海道・東北：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県
甲信越：新潟県、山梨県、長野県
北陸：富山県、石川県、福井県
東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、
鹿児島県、沖縄県

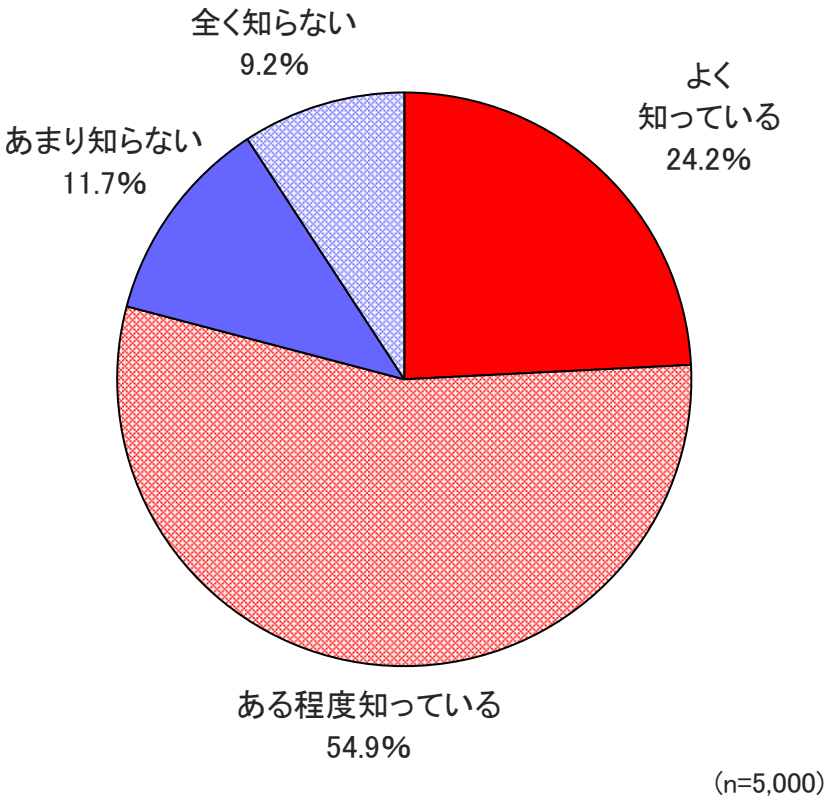
3. 調査実施期間

令和8年9月3日（木）～9月7日（月）

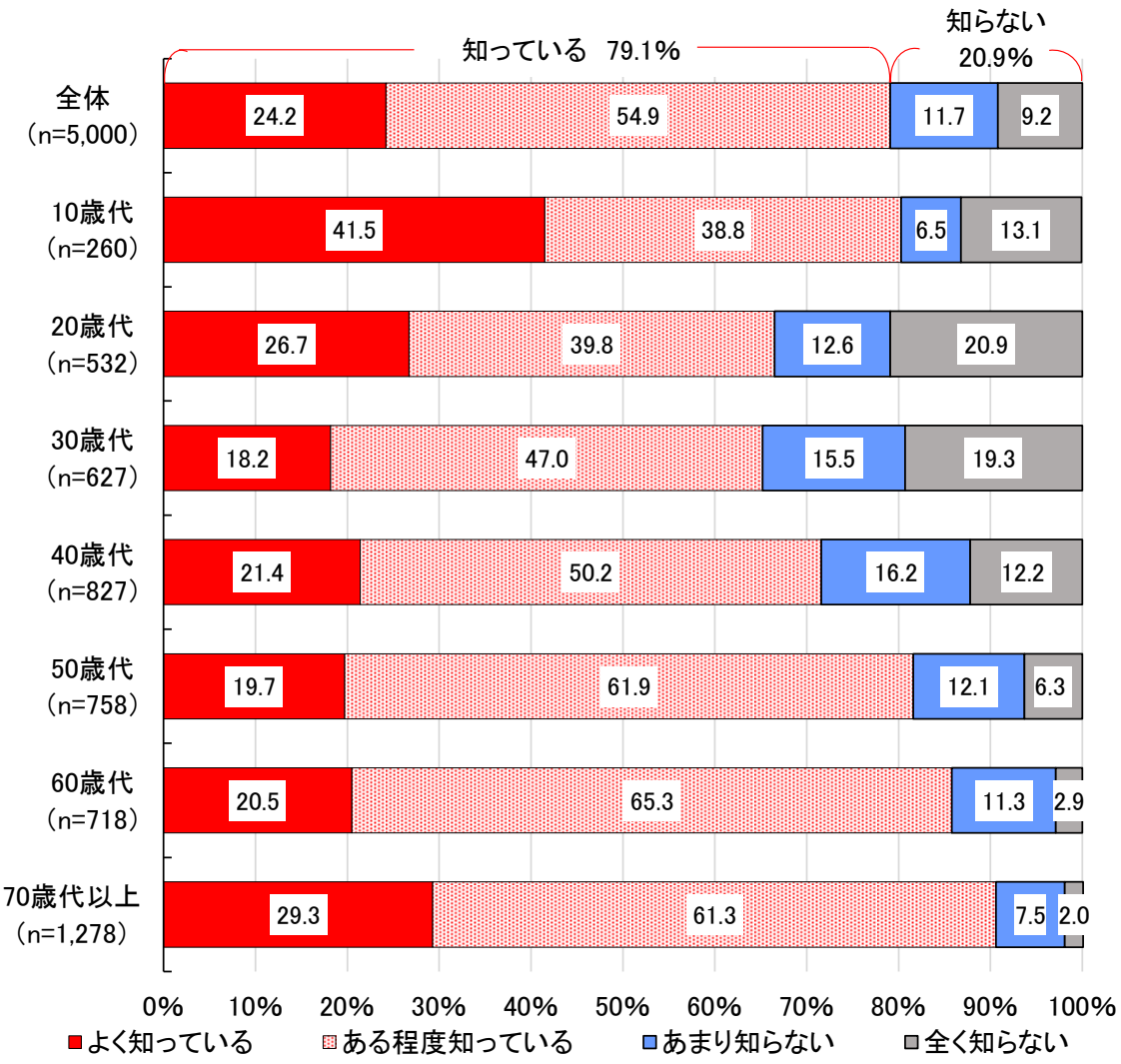
（備考）合計数値は、四捨五入の関係で、図表中の数値の合計と一致しない場合がある。

問1．あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。　（単一回答）

食品ロスが問題になっていることについて、「よく知っている（24.2%）」、「ある程度知っている（54.9%）」と回答した人の割合が合計で約8割となっている。

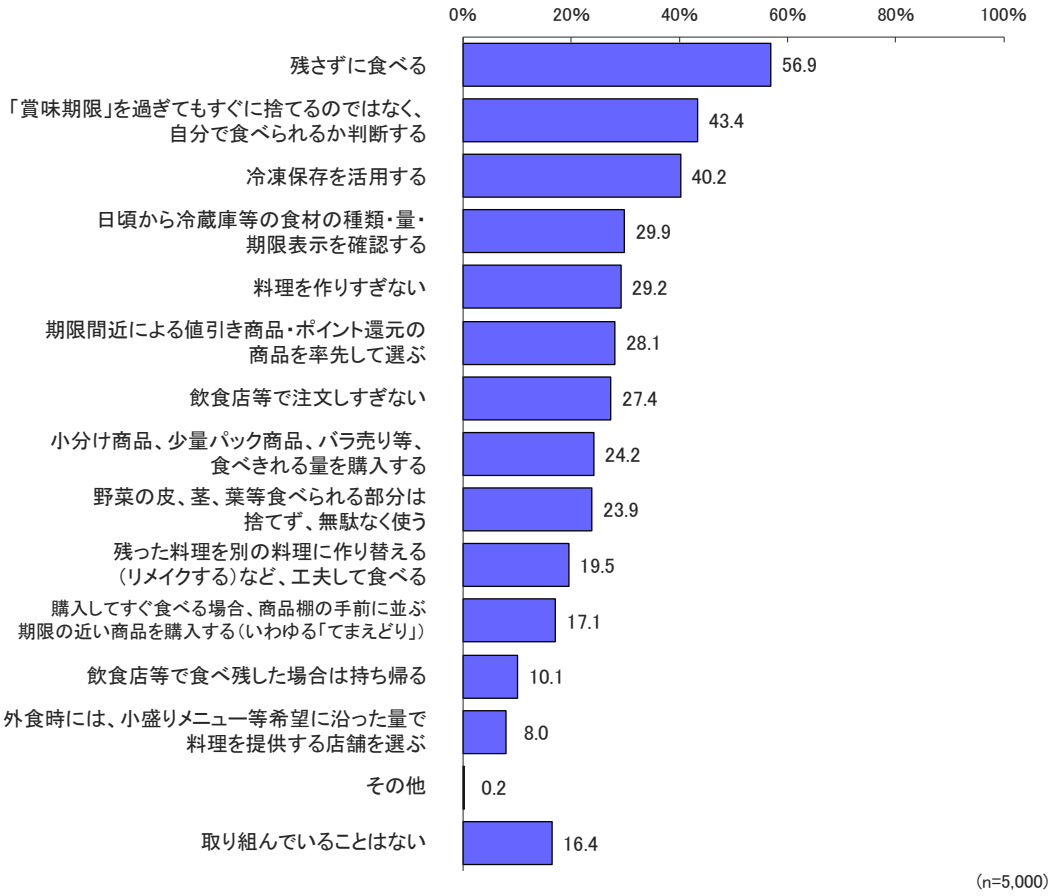


食品ロス問題の認知度を年代別に集計したところ、「知っている」(「よく知っている」と「ある程度知っている」のいずれか)と回答した人の割合が最も高かった年代は 70 歳代以上(90.5%)であり、最も低かった年代は 30 歳代(65.2%)となっている。

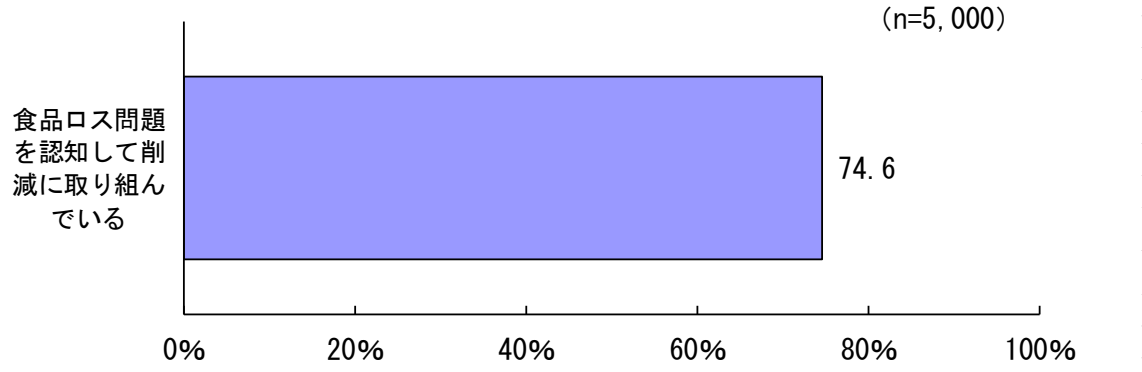


問2. あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを全てお選びください。　（複数回答）

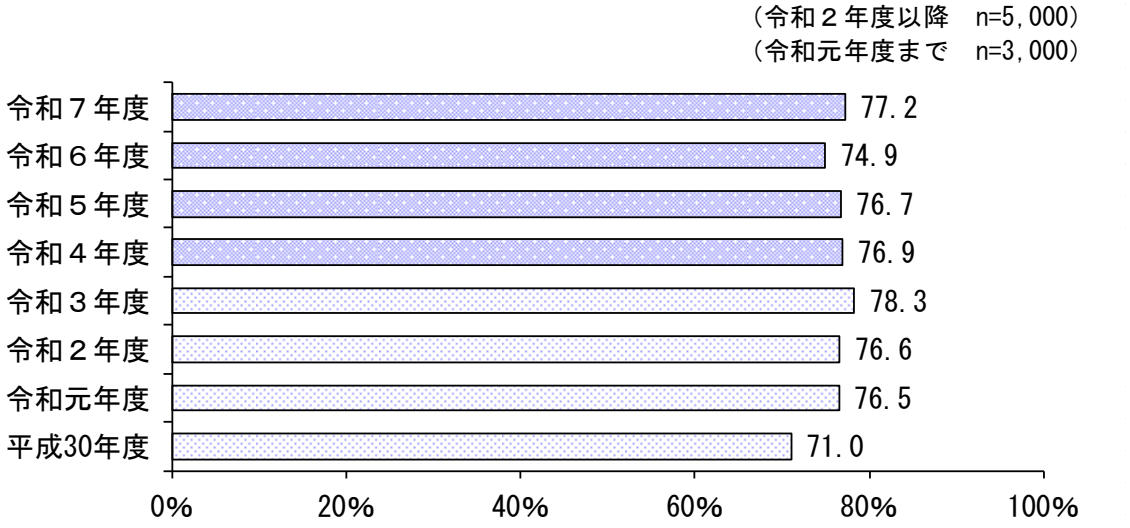
食品ロスを減らす取組で、「残さずに食べる（56.9%）」と回答した人の割合が最も高く、次いで「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する（43.4%）」、「冷凍保存を活用する（40.2%）」となっている。また、「取り組んでいることはない（16.4%）」と回答した人の割合は約2割となっており、何らかの取組を行っている人が大部分を占める結果となっている。



食品ロス問題を認知して削減に取り組む人の割合を集計（問１×問２）したところ、食品ロス問題を「知っている」と回答し、かつ食品ロスを減らすための取組を行っていると回答した人は全体の 74.6%となっている。



（参考：過年度の調査結果）



（出典）平成 30 年度～令和３年度：消費者庁「消費者の意識に関する調査－食品ロスの認知度と取組状況等に関する調査－」[1]

令和４年度：消費者庁「令和４年度第２回消費生活意識調査」

令和５年度：消費者庁「令和５年度第２回消費生活意識調査」

令和６年度：消費者庁「令和６年度第２回消費生活意識調査」

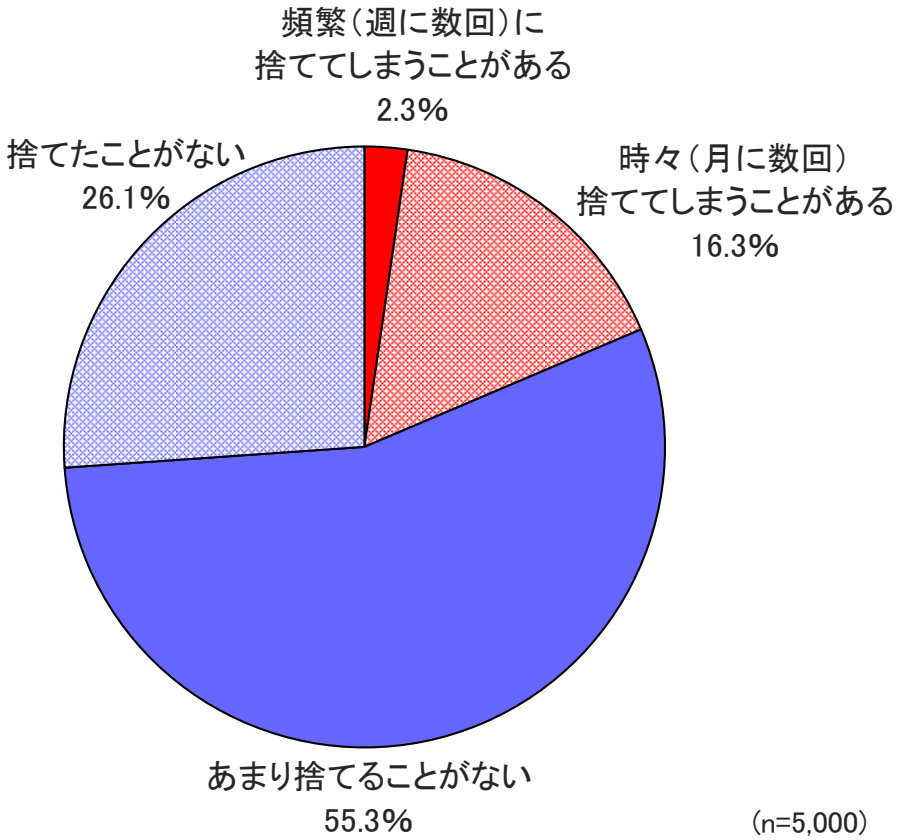
令和７年度：消費者庁「令和７年度第１回消費生活意識調査」

（備考）平成 30 年度から令和３年度までの調査対象年齢は 18 歳以上

[1] https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/opinion_archive

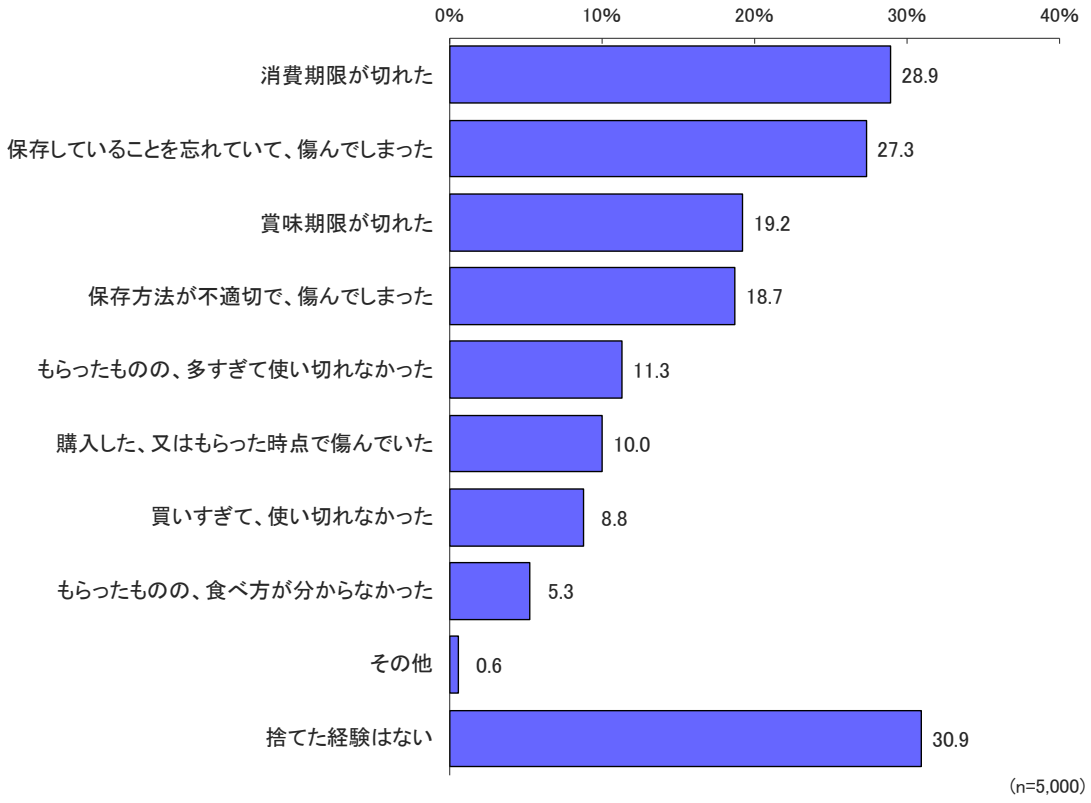
問3. あなたは普段の生活でまだ食べることができる食品を捨ててしまうことがありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。　　（単一回答）

普段の生活でまだ食べることができる食品について、「あまり捨てることがない（55.3%）」、「捨てたことがない（26.1%）」と回答した人の割合が合計で約8割と大部分を占めており、「時々（月に数回）捨ててしまうことがある（16.3%）」、「頻繁（週に数回）に捨ててしまうことがある（2.3%）」と回答した人の割合は合計で約2割となっている。



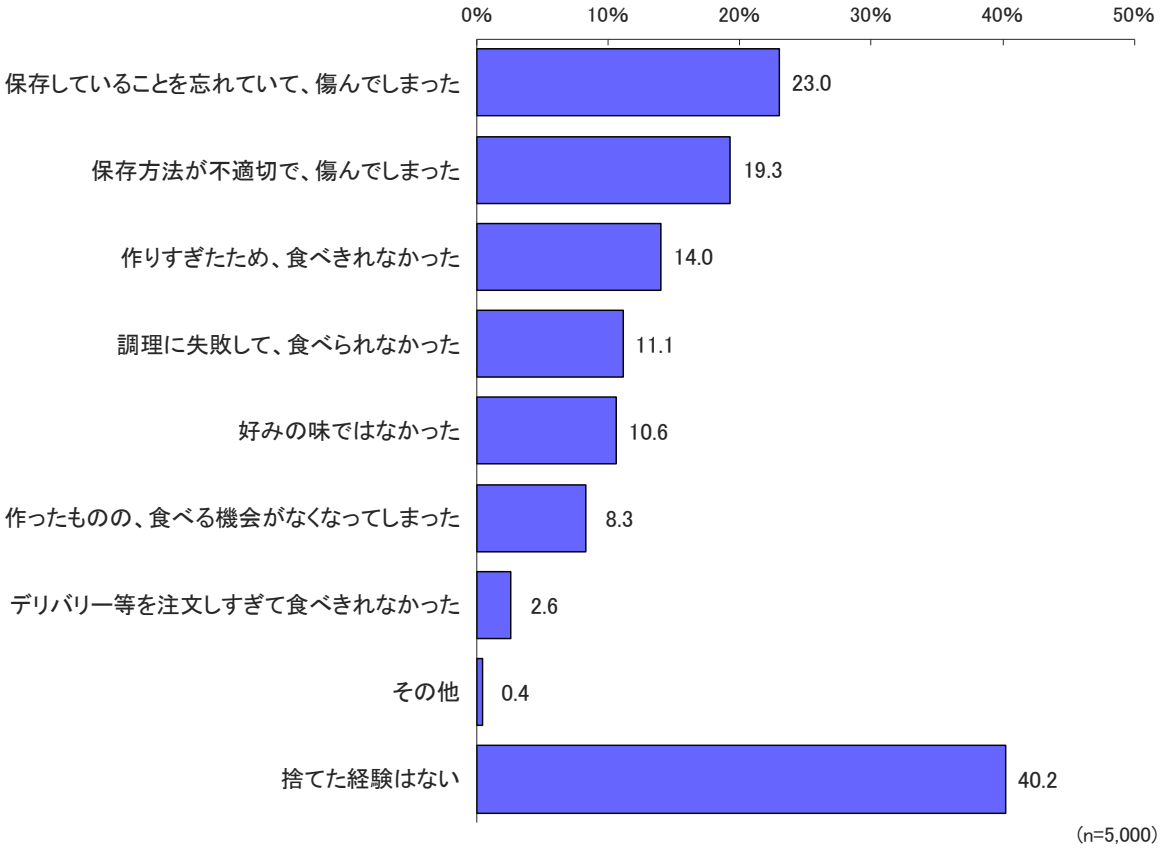
問4. 未開封・未使用の食材・食品を捨ててしまったことはありますか。捨ててしまった際の理由として、当てはまるものを全てお選びください。　（複数回答）

未開封・未使用の食材・食品を捨ててしまった理由の上位は、「消費期限が切れた（28.9%）」、「保存していることを忘れていて、傷んでしまった（27.3%）」となっており、どちらも約3割となっている。また、「捨てた経験はない（30.9%）」と回答した人も約3割となっている。



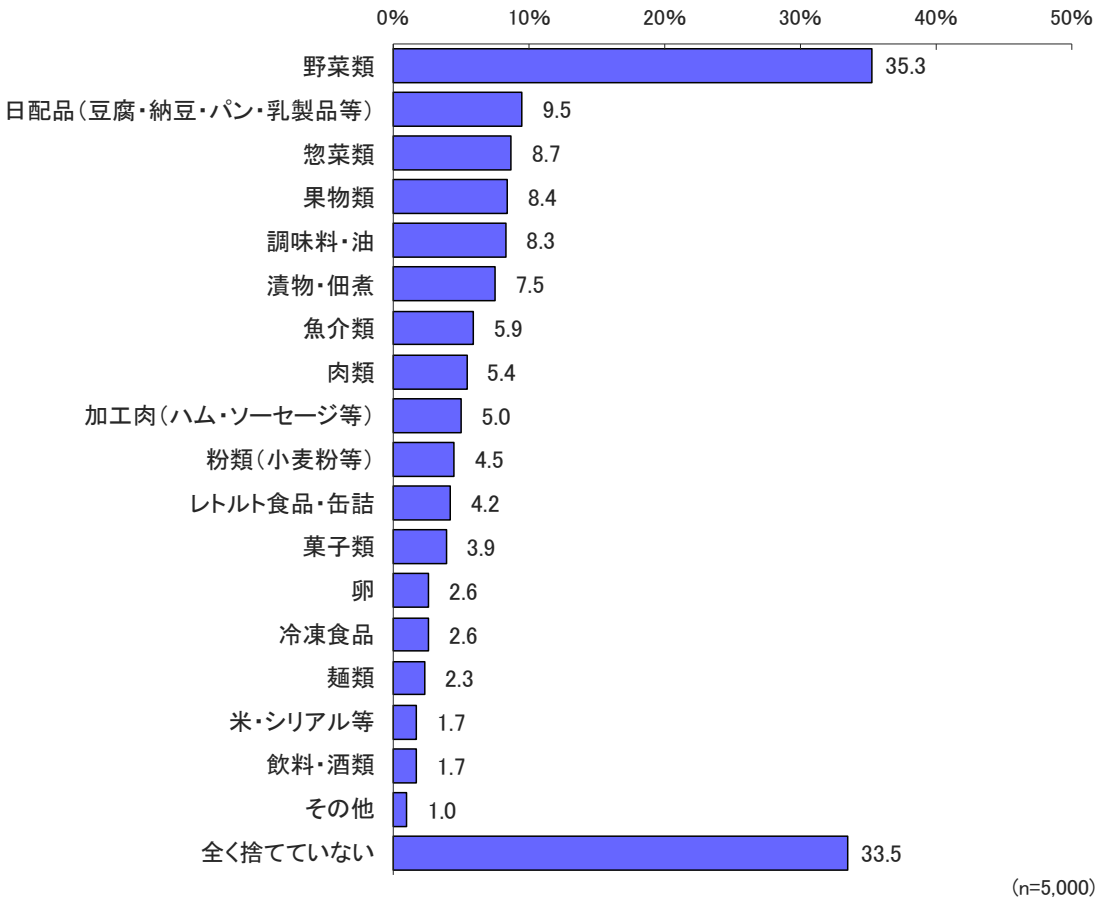
問5．家庭で料理を食べ残して捨ててしまったことはありますか。捨ててしまった際の理由として、当てはまるものを全てお選びください。　（複数回答）

家庭で料理を食べ残して捨ててしまった理由の上位は、「保存していることを忘れていて、傷んでしまった（23.0%）」、「保存方法が不適切で、傷んでしまった（19.3%）」、「作りすぎたため、食べきれなかった（14.0%）」となっている。また、「捨てた経験はない（40.2%）」と回答した人が約4割となっている。



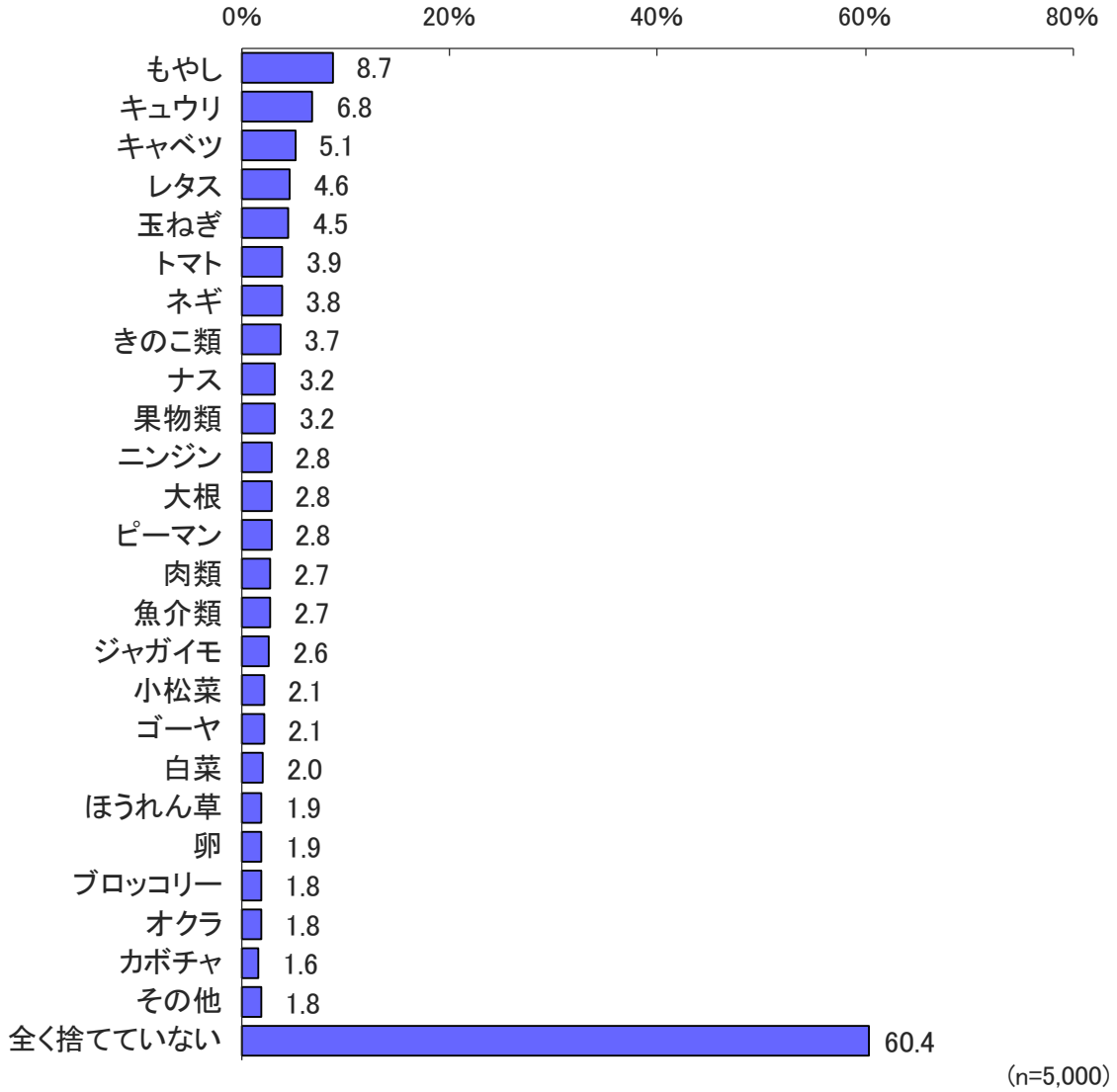
問6. あなたが、家庭で捨ててしまいがちな食品を全てお選びください。（複数回答）

家庭で捨ててしまいがちな食品として、「野菜類（35.3%）」と回答した人の割合が最も高くなっている。一方で、回答した人の割合が低い食品として、「飲料・酒類（1.7%）」、「米・シリアル等（1.7%）」、「麺類（2.3%）」が挙げられる。



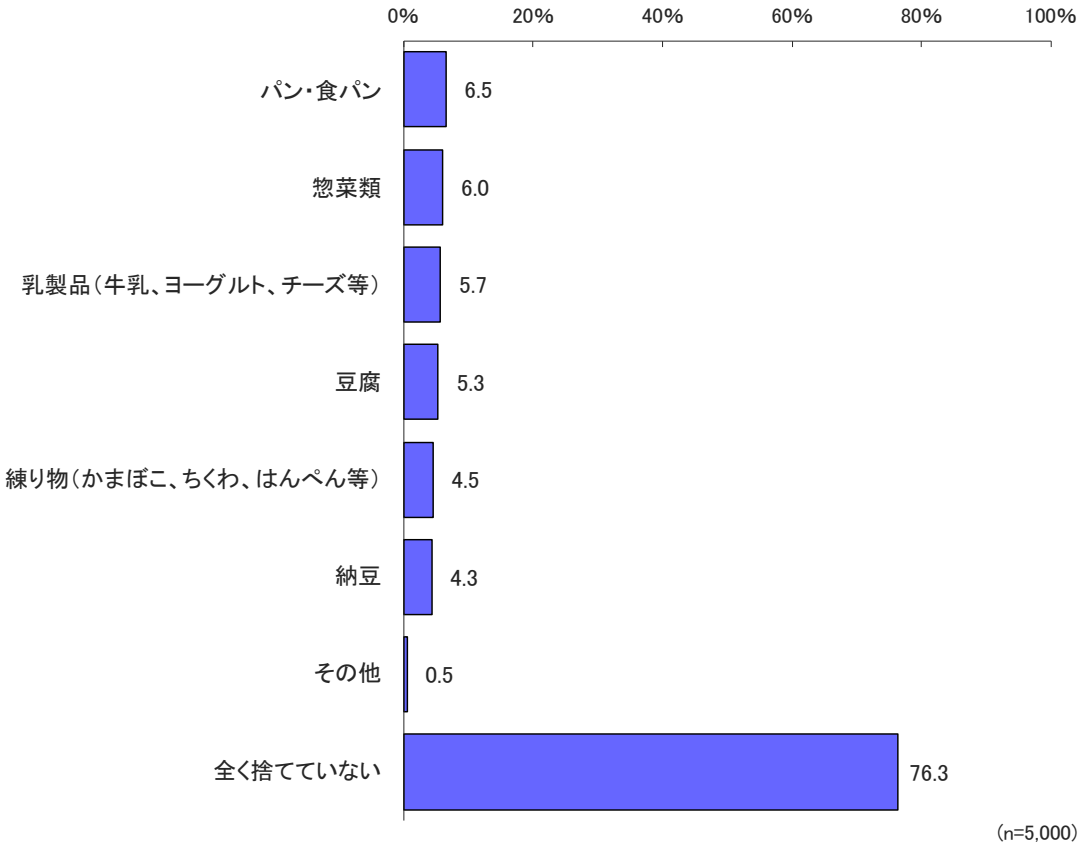
問7. 直近1か月の間に捨ててしまった生鮮食品を全てお選びください。(複数回答)

直近1か月の間に捨ててしまった生鮮食品は、「もやし(8.7%)」、「キュウリ(6.8%)」が上位となっている。一方で、「全く捨てていない(60.4%)」と回答した人は約6割となっている。



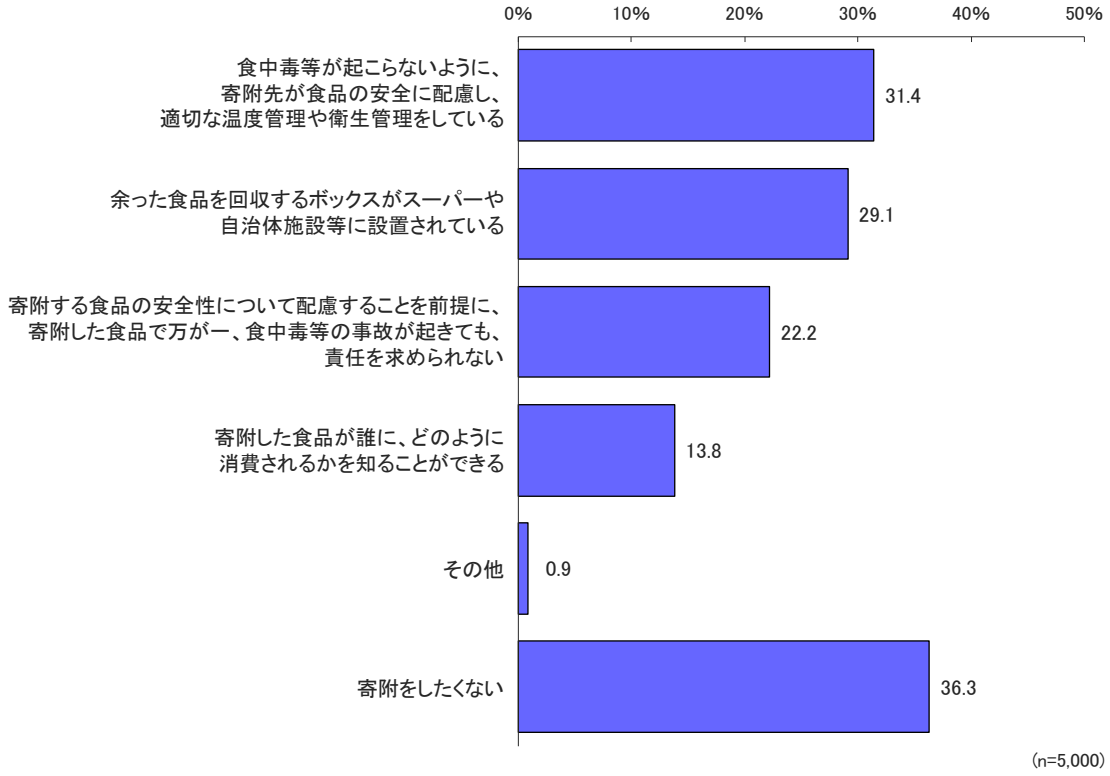
問8. 直近1か月の間に捨ててしまった日配品（毎日店舗に配送される、比較的賞味期限の短い商品）を全てお選びください。　（複数回答）

直近1か月の間に捨ててしまった日配品は、「パン・食パン（6.5%）」、「惣菜類（6.0%）」、「乳製品（牛乳、ヨーグルト、チーズ等）（5.7%）」が上位となっている。一方で、「全く捨てていない（76.3%）」と回答した人の割合は約8割となっている。



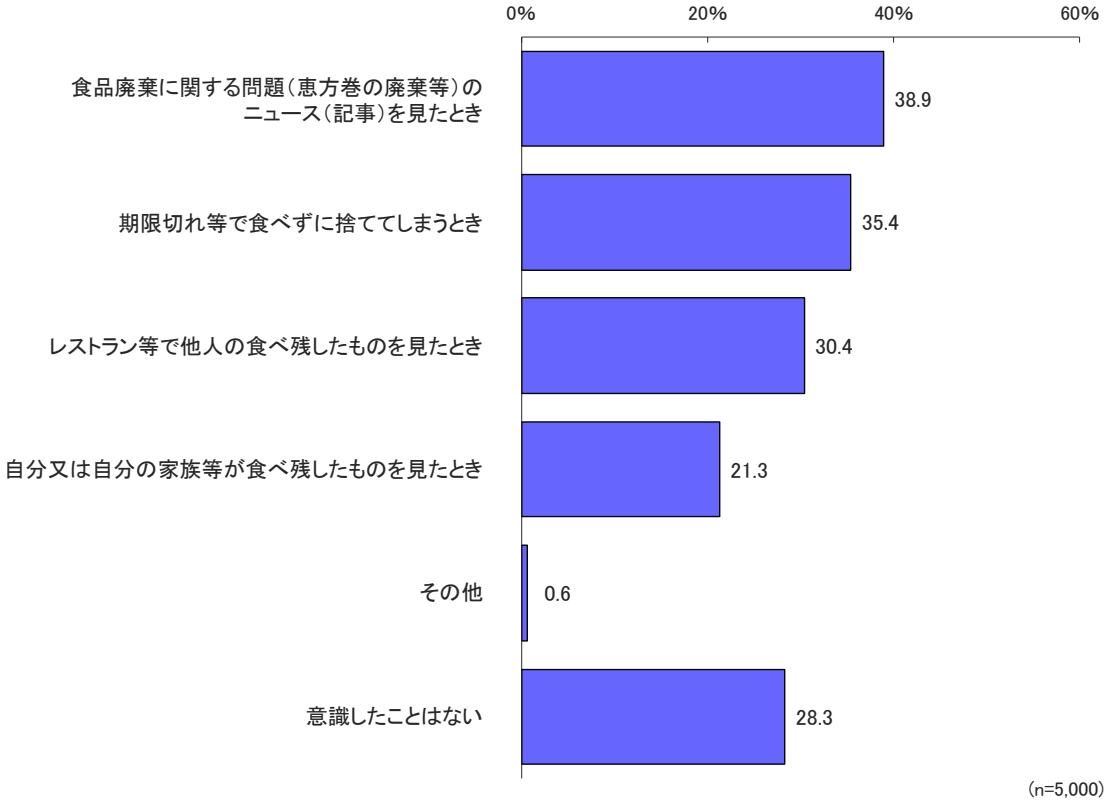
問9. より多くの方が家庭で余った食品を寄附できるようにするためには、あなたはどの取組が効果的だと思いますか。以下の項目のうち、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答）

より多くの方が家庭で余った食品を寄附できるようにするためには、「食中毒等が起こらないように、寄附先が食品の安全に配慮し、適切な温度管理や衛生管理をしている（31.4%）」ことが効果的と回答した人の割合が最も高かった。次いで「余った食品を回収するボックスがスーパーや自治体施設等に設置されている（29.1%）」となっている。一方で、「寄附をしたくない（36.3%）」と回答した人の割合は約4割となっている。



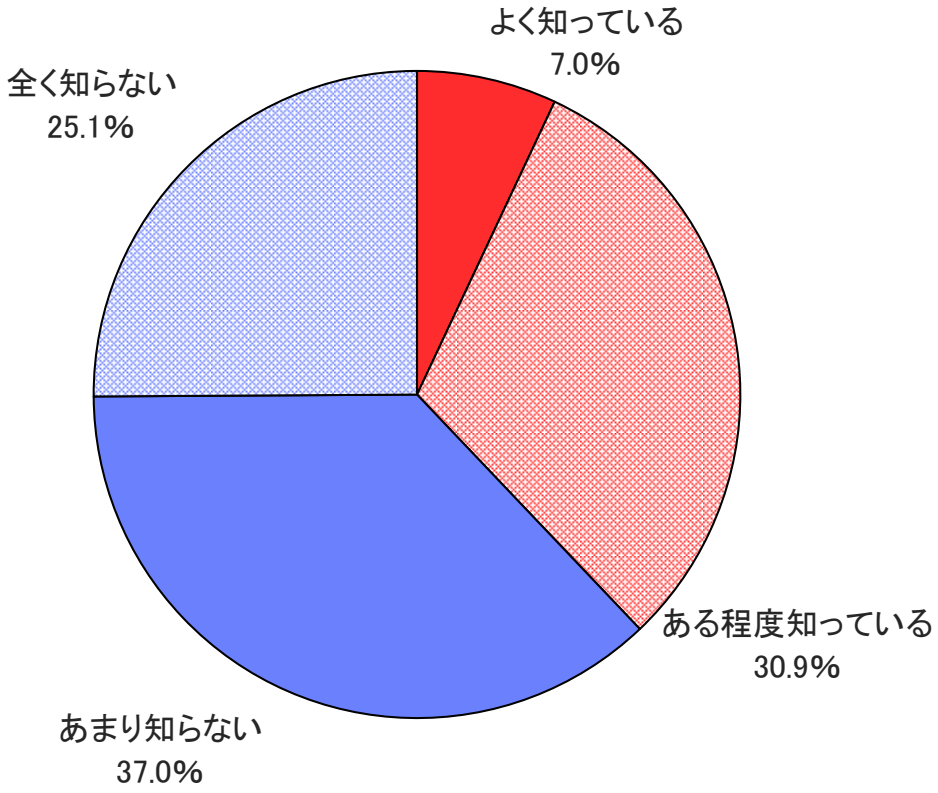
問 10. あなたは食生活の中で「もったいない」を意識したことはありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを全てお選びください。　（複数回答）

食生活の中で「もったいない」と意識した状況について、「食品廃棄に関する問題（恵方巻の廃棄等）のニュース（記事）を見たとき(38.9%)」と回答した人の割合が最も高く、次いで「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき（35.4%）」となっている。一方で、「意識したことはない（28.3%）」と回答した人の割合は約3割となっている。



問 11. あなたは、食品ロスを削減することが、「地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動」であるエシカル消費の一つであることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。
※エシカル＝倫理的・道徳的　（単一回答）

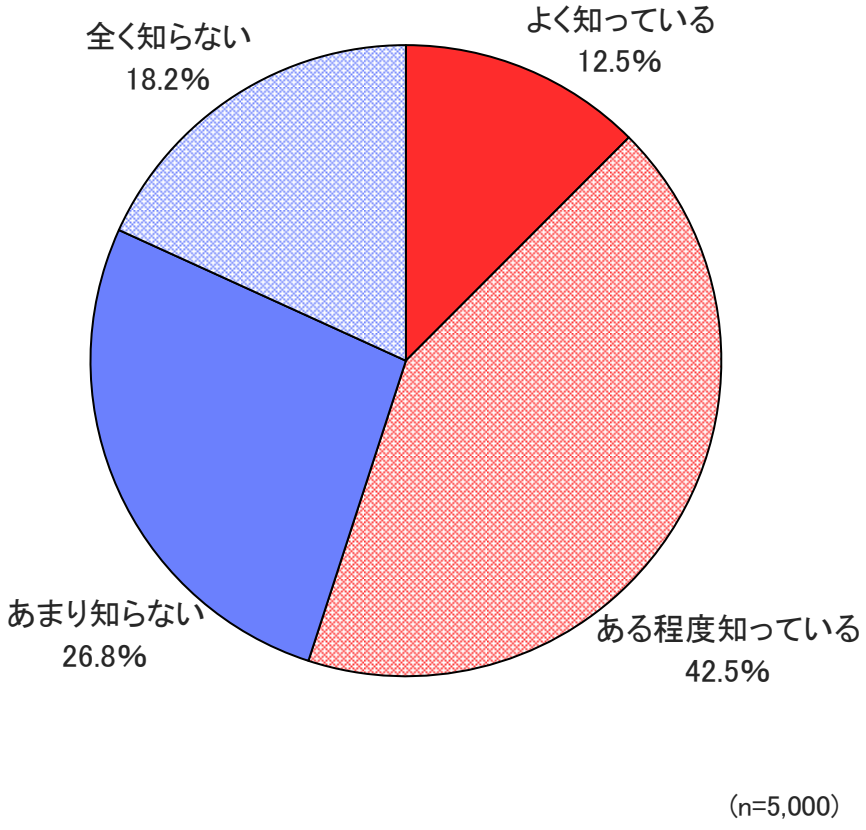
食品ロスを削減することがエシカル消費の一つであることを、「よく知っている（7.0%）」、「ある程度知っている（30.9%）」と回答した人の割合が合計で約4割となっている。



（n=5,000）

問 12. あなたは、食品ロスを削減することが、持続可能な開発目標（SDGs）の一つであることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。（単一回答）

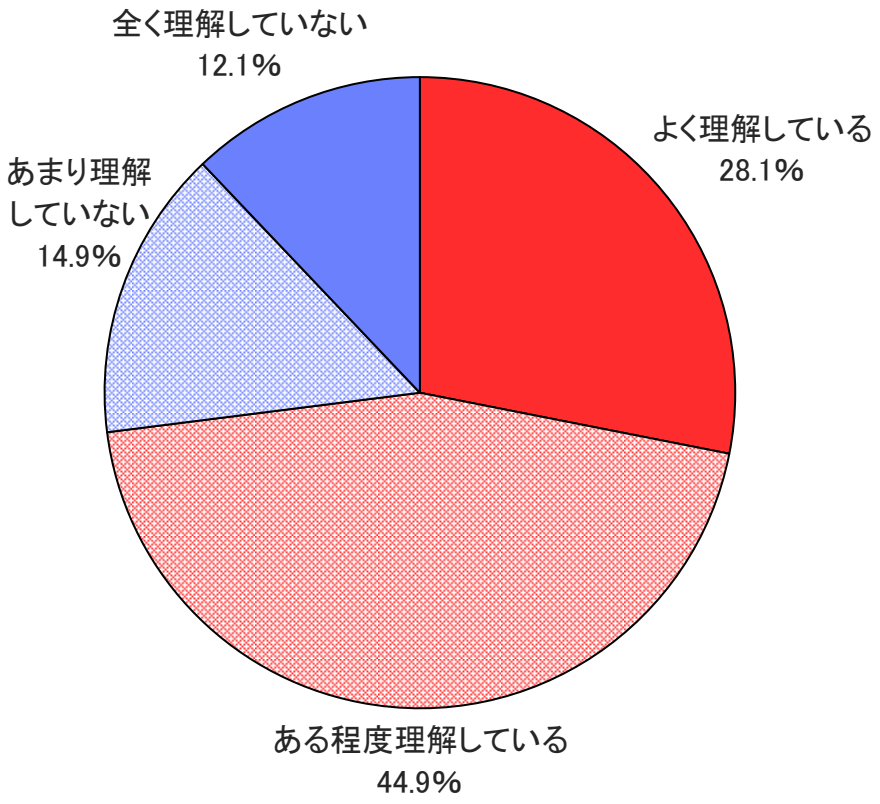
食品ロスを削減することは、持続可能な開発目標（SDGs）の一つであることについて、「よく知っている（12.5%）」、「ある程度知っている（42.5%）」と回答した人の割合が合計で約6割となっている。



（n=5,000）

問 13.「賞味期限」とはおいしく食べられる期限、「消費期限」とは安全に食べられる期限のことを言います。賞味期限・消費期限を正しく理解していますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。　（単一回答）

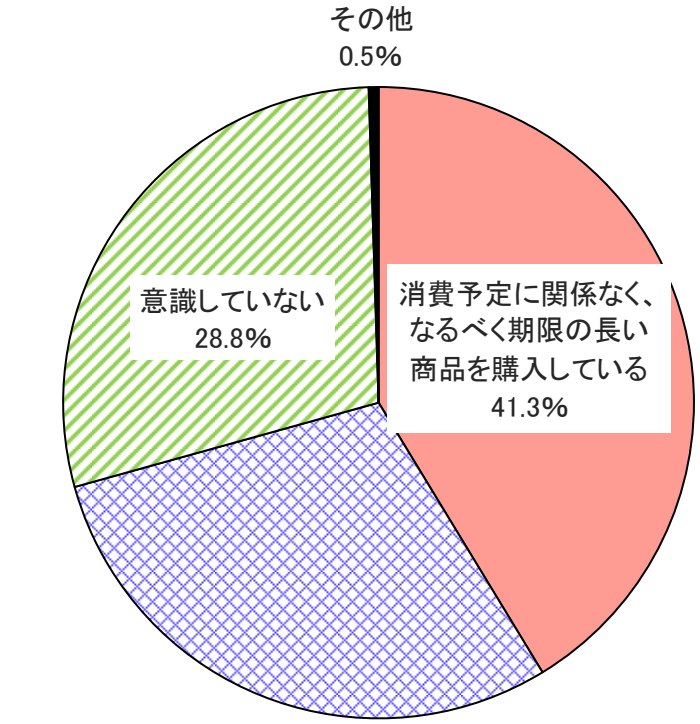
賞味期限・消費期限について、「よく理解している（28.1%）」、「ある程度理解している（44.9%）」と回答した人の割合が合計で約7割となっている。



（n=5,000）

問 14. あなたは食品を購入する際に賞味期限・消費期限を意識していますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。　（単一回答）

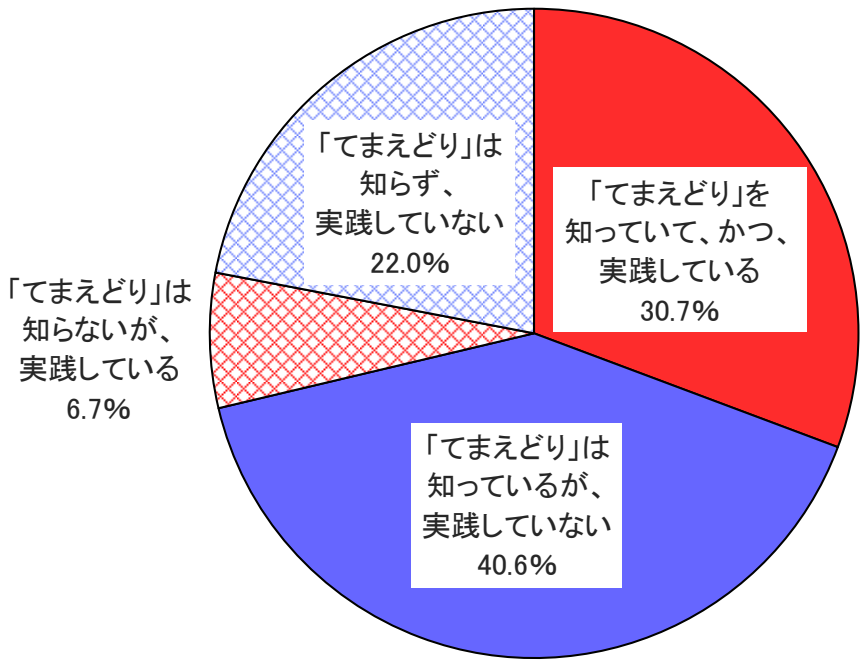
賞味期限・消費期限に対して、「消費予定に関係なく、なるべく期限の長い商品を購入している（41.3%）」と回答した人の割合が「消費予定が近いものは、なるべく期限の短い商品を購入している（29.4%）」と回答した人の割合よりも高い。



（n=5,000）

問 15.「てまえどり」について、以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。
※てまえどり：日頃の買い物の際、購入してすぐに食べるものについて、商品棚の手前にある商品等、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ行為　　（単一回答）

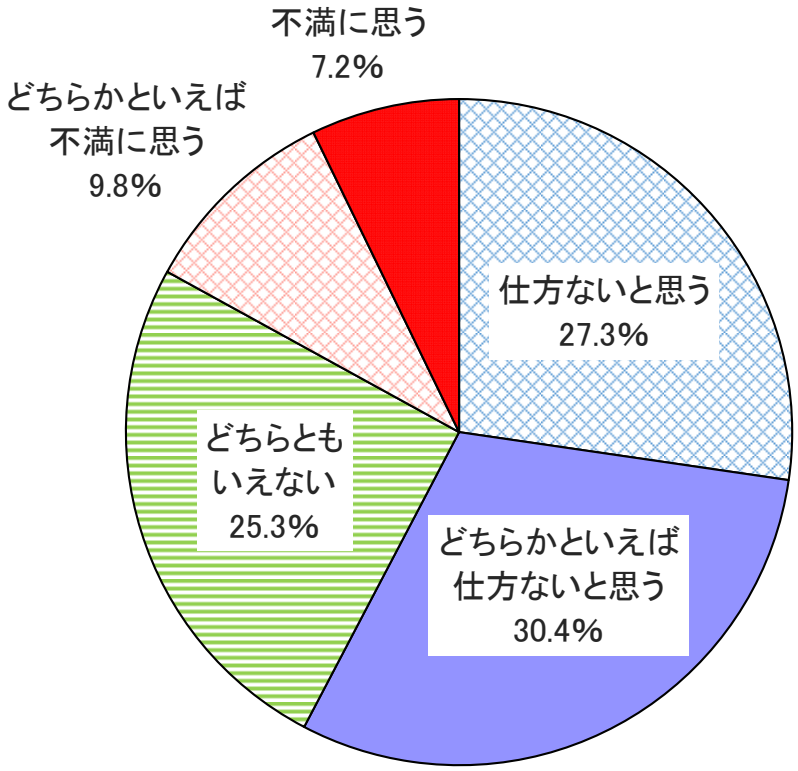
「『てまえどり』を知っている」（「『てまえどり』を知っていて、かつ、実践している（30.7%）」と「『てまえどり』は知っているが、実践していない（40.6%）」のいずれか）と回答した人の割合は約7割となっている。



（n=5,000）

問 16. あなたは日常の買い物をしている小売店（スーパー等）において、普段購入している惣菜等の食品に欠品（売り切れ）が生じていた場合に、どのように思いますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。　　（単一回答）

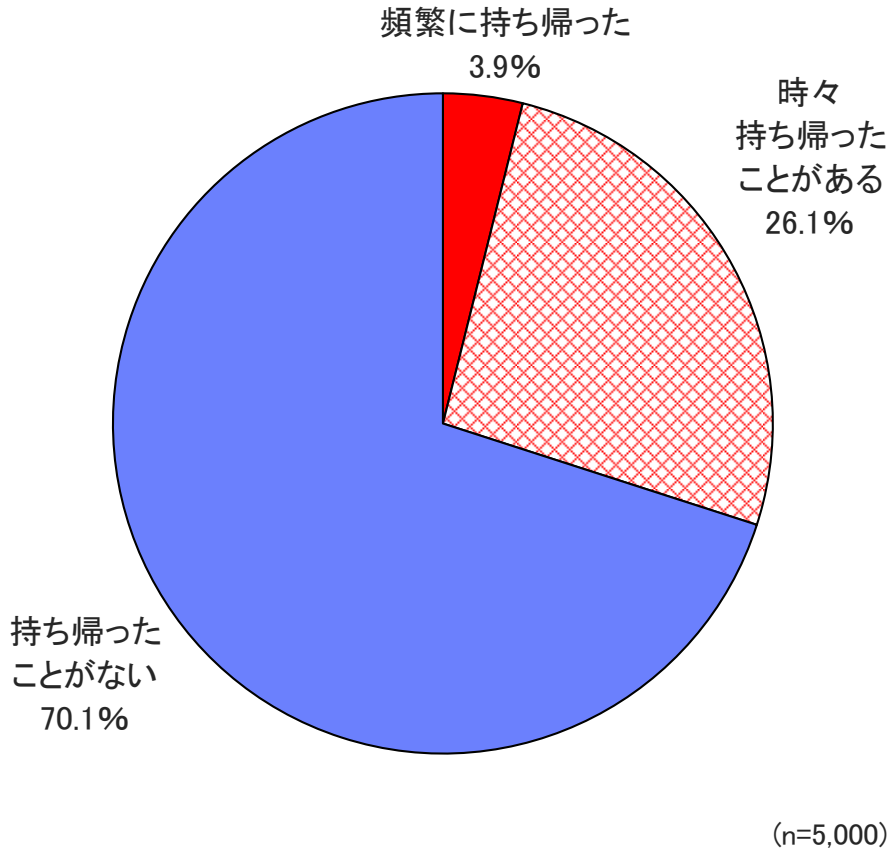
普段購入している惣菜等の食品に欠品（売り切れ）が生じていた場合、「仕方ないと思う（27.3%）」、「どちらかといえば仕方ないと思う（30.4%）」と回答した人の割合は合計で約6割となっている。一方で、「不満に思う（7.2%）」、「どちらかといえば不満に思う（9.8%）」と回答した人の割合は合計で約2割となっている。



（n=5,000）

問 17. 直近1年間についてお聞きします。持ち帰り用パック等を使って飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ったことはありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。（単一回答）

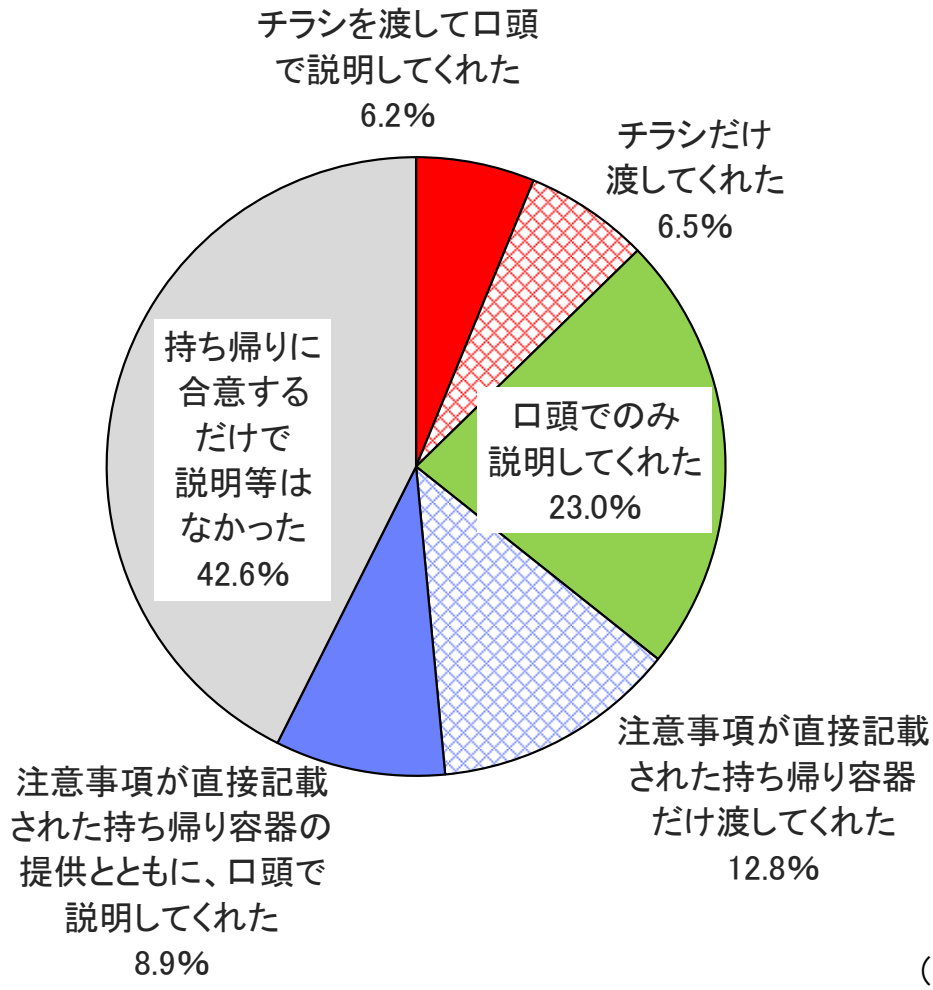
飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ることについて、「持ち帰ったことがない（70.1%）」と回答した人の割合が約7割となっている。



（n=5,000）

問 18. 飲食店は、チラシを渡すなどして、持ち帰ったものを飲食する際の注意事項等を説明してくれましたか。　（単一回答）

飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰る際の飲食店からの説明について、「持ち帰りに合意するだけで説明等はなかった（42.6%）」と回答した人の割合が最も高く、次いで「口頭でのみ説明してくれた（23.0%）」となっている。

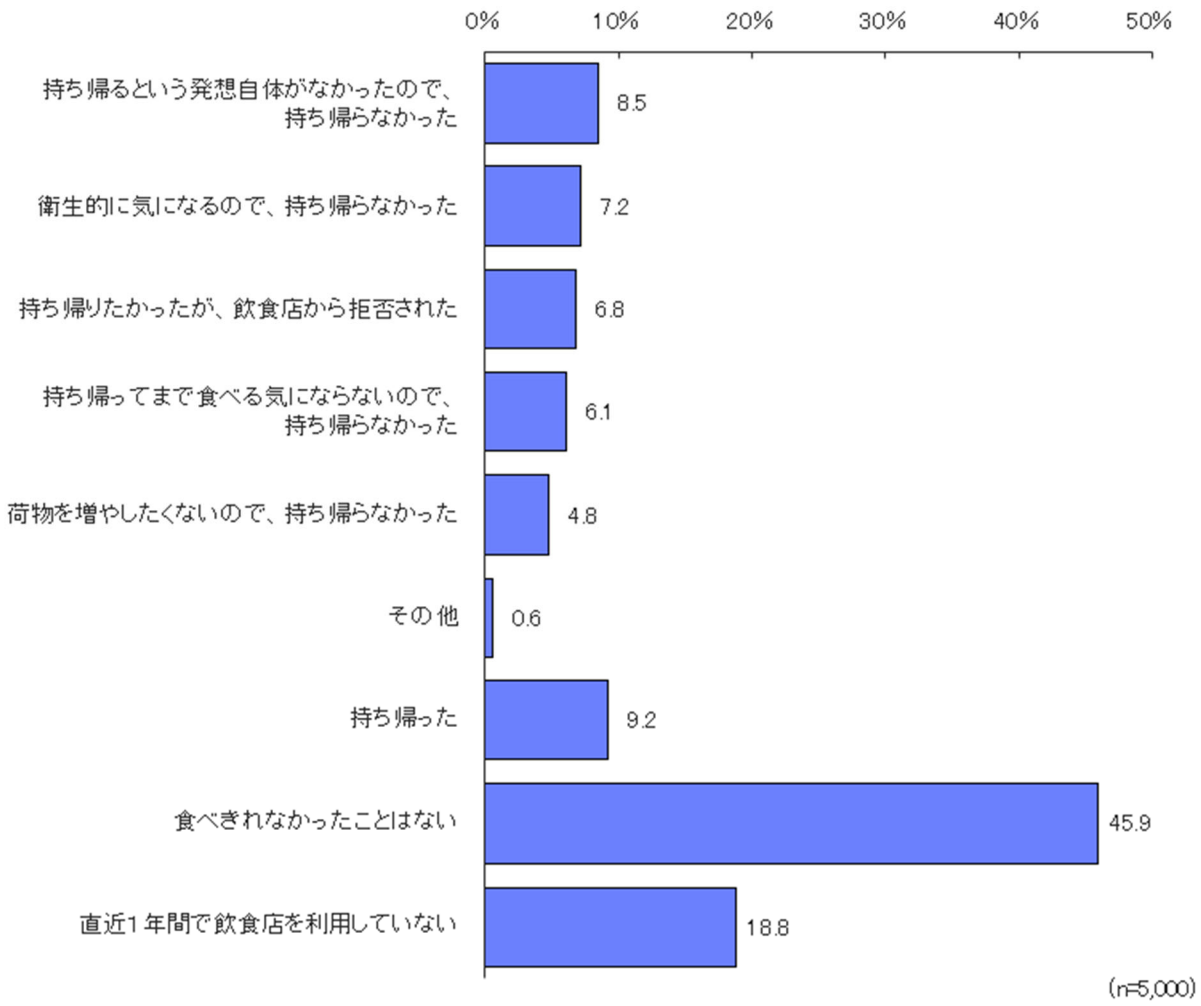


（n=1,497）

（備考）問 17 で「頻繁に持ち帰った」又は「時々持ち帰ったことがある」と回答した人に質問。

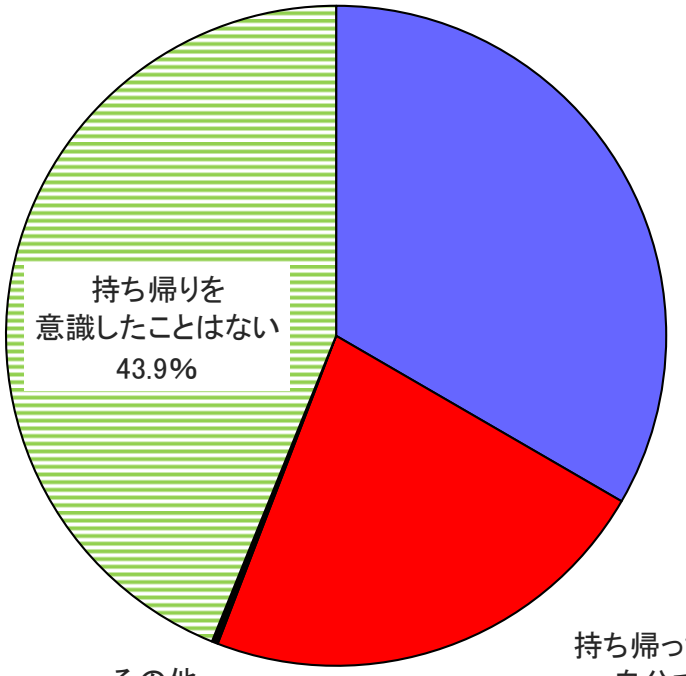
問 19. 直近1年間についてお聞きします。飲食店で料理を食べきれなかった際の、残した料理への対応とその理由について、以下の項目のうち、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答）

飲食店で食べきれなかった際の対応について、「食べきれなかったことはない（45.9%）」と回答した人の割合が最も高く、食べきれなかった料理を持ち帰らなかった理由の中では、「持ち帰るという発想自体がなかったので、持ち帰らなかった（8.5%）」と回答した人の割合が最も高かった。



問 20. 飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ることについて、飲食店側は、持ち帰った以降の不適切な管理によって食中毒等の事故が発生することを危惧し、持ち帰りを認めないことがありますが、こうした店側の対応について、あなたはどう思いますか。当てはまるものを一つお選びください。　（単一回答）

食べきれなかった料理を持ち帰ることを飲食店側が認めないことについて、「食中毒等の事故が発生する危険性を考えれば、店側が持ち帰りを認めないことはやむを得ない（33.4%）」と回答した人の割合は約3割となっている。一方で、「持ち帰った後の食品の管理は自分で注意すればよく、店側の十分な注意喚起や容器包装の提供を前提に、持ち帰りを認めるべき（22.5%）」と回答した人の割合は約2割となっている。



（n=5,000）

問 21. 食品関連事業者（食品製造業者、スーパー、飲食店、ホテル、結婚式場等）は食品リサイクル法（2001 年～）に基づき、食品廃棄物の発生を抑制し、やむを得ず発生してしまった場合はリサイクル（肥料化・飼料化等）に努めることが義務付けられていることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。（単一回答）

食品関連事業者には、食品廃棄物の発生を抑制し、やむを得ず発生してしまった場合はリサイクルに努めることが義務付けられていることについて、約3割が「知っている」（「よく知っている（5.2%）」と「ある程度知っている（23.9%）」のいずれか）と回答し、約7割が「知らない」（「あまり知らない（39.2%）」と「全く知らない（31.7%）」のいずれか）と回答している。

